

「さんぱい施設見学会」等の実施状況

平成25年度の取組状況（平成25年10月末現在）

1 さんぱい施設見学会（エコバスツアー）

＜事業系廃棄物対策室が実施＞

3回（計74名）

※ いずれも小中学生向け、
参加者数は保護者を含む。

②4回（計104名）
※うち2回が小中学生向け

＜各区エコまちステーション等が実施＞

5回（計86名）

※ 上記以外にも地域の団体が企画するものがある。

②3回（計54名）

2 第14回環境フォーラムきょうと **準備中**

産廃の処理やリサイクルについて、市民に知ってもらうための
イベント（（公社）京都府産業廃棄物協会と共催で実施）

・日時：平成26年3月8日（土）

・場所：イオンモールKYOTO kotoホール

1 さんぱい施設見学会（エコバスツアー）

1 事業系廃棄物対策室実施分（小中学生対象）

- 8月 5日 朝日新聞京都工場 ～ (株)カンポ
 - 8月 7日 イオンモールKYOTO～(株)大剛，京都有機質資源(株)
 - 8月 9日 月桂冠大倉記念館 ～ (株)京都環境保全公社
- ※ 平成23年度から見学先に排出事業場を加えた。

2 各区エコまちステーション実施分（平成25年10月末現在）

- 6月 25日 (株)京都環境保全公社 (西京区・洛西)
- 7月 1日 山本清掃(株) ～ (株)京都環境保全公社 (山科区)
- 9月 10日 横大路学園 ～ (株)京都環境保全公社 (西京区・洛西)
- 9月 27日 光アスコン(株) (左京区)
- 10月 29日 京都有機質資源(株) (西京区)

※ 平成24年度から各区エコまちステーション等でも産業廃棄物処理施設の見学を企画・実施できることとし，平成25年度にその機会を増やした。

見学会の様子（8/5） —朝日新聞京都工場—

◆環境への取組みについて紹介



見学会の様子（8/5）－(株)カンポー－

◆RPF製造施設の見学



見学会の様子（8/7）—(株)大剛—

◆RPF製造施設等の見学



見学会の様子（8/7）—(株)京都有機質資源—

◆食品廃棄物のリサイクル施設等の見学



見学会の様子（8/7）ーイオンモールKYOTOー

◆廃棄物保管庫の見学



見学会の様子（8/9）一月桂冠大倉記念館一

◆環境への取組みについて紹介

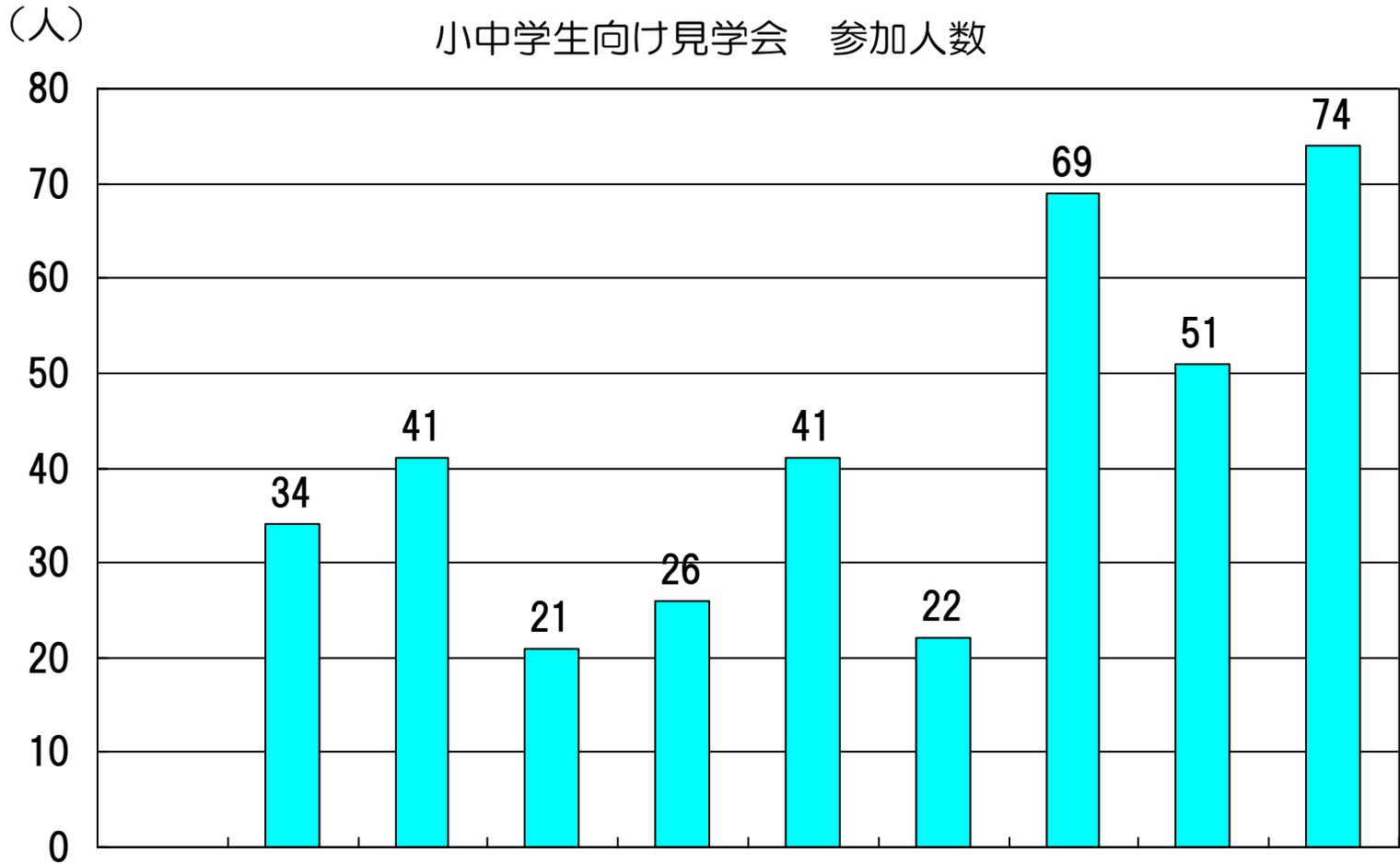


見学会の様子（8/9） —(株)京都環境保全公社—

◆焼却施設の受入ピットの見学



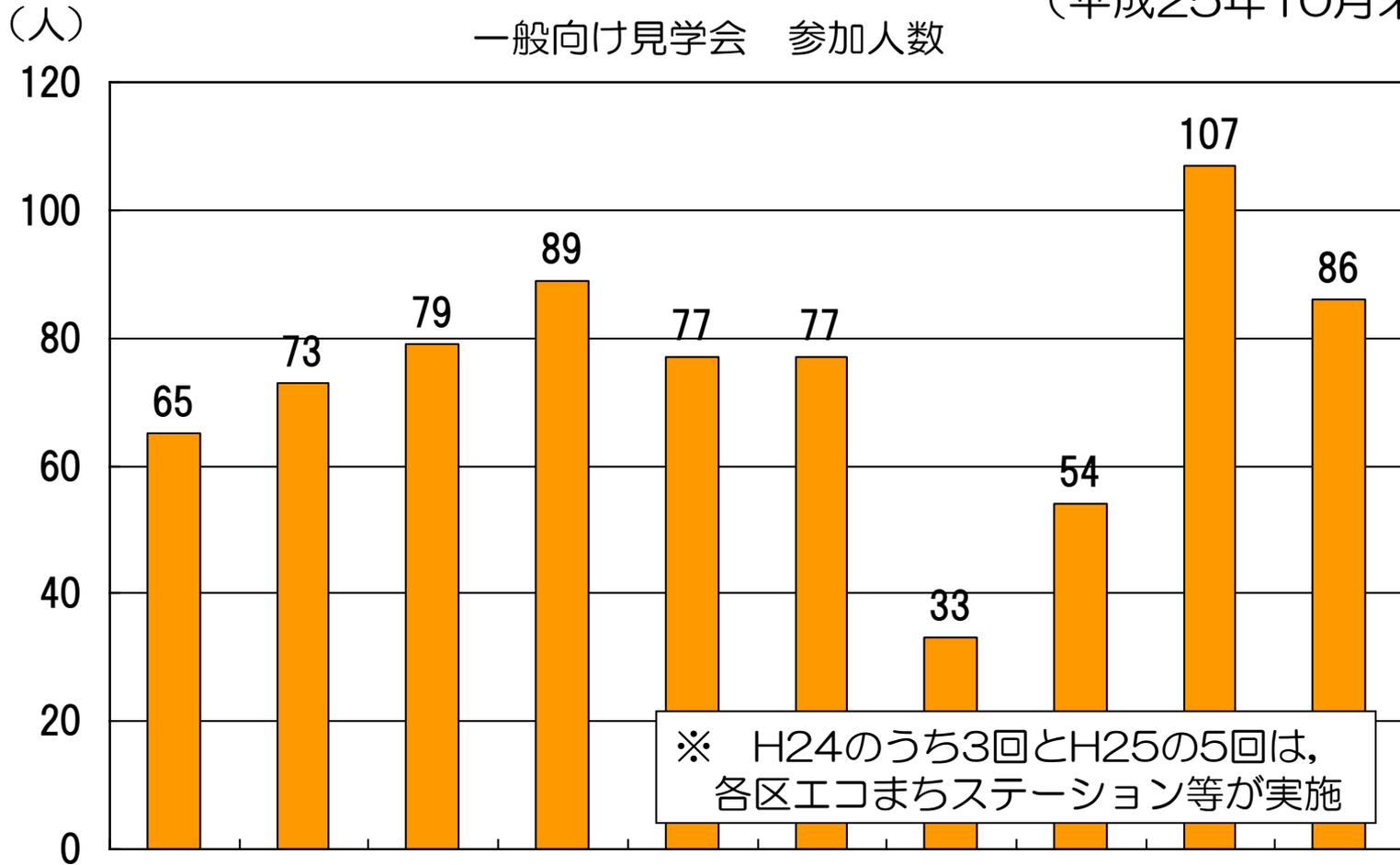
さんぱい施設見学会参加人数の推移①



実施年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
実施回数	0回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	2回	2回	3回

さんぱい施設見学会参加人数の推移②

(平成25年10月末現在)



実施年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
実施回数	3回	2回	2回	2回	2回	2回	1回	2回	5回	5回

さんぱい施設見学会（小中学生向け）アンケート

<アンケート結果>

○ 満足していただいた方のご意見・ご感想（主なもの）

- ごみをリサイクルするためには、多大な時間と費用がかかっていることを知った。
- 改めて環境を見直すきっかけになった。
- ごみは分別が大切だと分かった。
- 「RPF」など、新しい知識が増えてよかった。
- 日常的にエコに取り組んでいきたい。

○ 今後よりよい事業にするためのご意見・ご感想

- 食品廃棄物再資源化施設では、紙マスク等の配布があれば良いと思う。
- 夏場なので消臭剤を用意してもらえるとありがたかった。

<まとめ>

- 見学会に参加することは、親子でごみの事について考えるいい機会になっている。
- 参加理由が自由研究のためとする小中学生も多いため、夏休み期間での開催が望ましい。
- 排出事業者と処理施設の両方を見学するツアーが参加者に人気がある。
- 夏場の産業廃棄物処理施設の見学であるため、臭い等について、参加者₁₂へ配慮が必要である。

2 第14回環境フォーラムきょうと

準備中

<日程等>

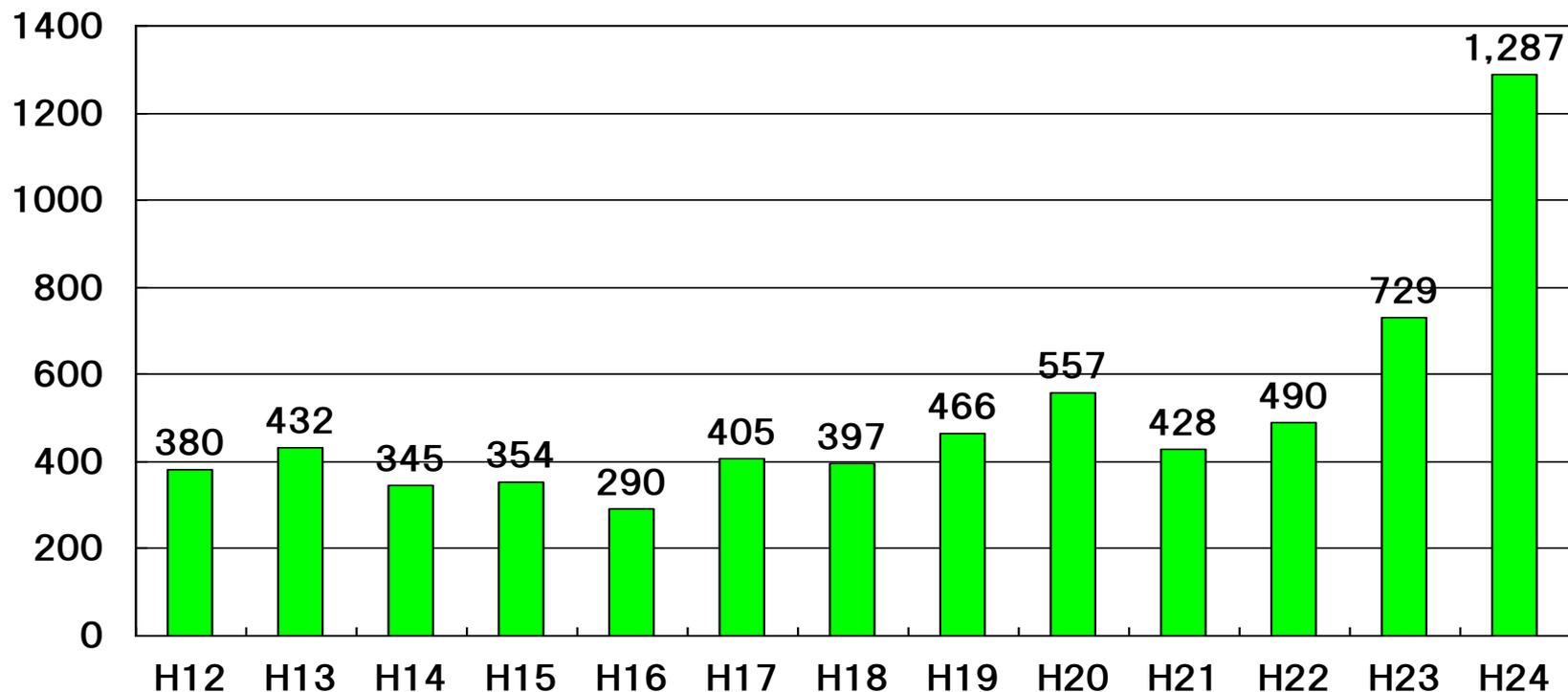
- 日 程 平成26年3月8日（土） 10時～17時
- 会 場 イオンモールKYOTO kotoホール

<概 要>

今年度も、以下のような視点を踏まえて実施する。

- (1) 次のこと分かりやすくアピールすること。
 - 産業廃棄物とは何か。また、どのように処理されているか。
 - 産業廃棄物の適正処理等が市民生活に身近で大切な問題であること。
 - 多くの産業廃棄物がリサイクルされていること。
 - 多くの事業者が産業廃棄物の適正処理の確保やリサイクル等の推進に取り組んでいること。
- (2) 今後のまちづくりを担う小中学生やファミリー層の参加が期待できる企画を行うこと。
- (3) 他の環境問題への関心を高めるきっかけになること。

フォーラムの参加人数の推移



会場

- H12 : アバンティホール (ホール定員 : 362名)
- H13~H19 : 北文化会館 (ホール定員 : 405名)
- H20~H22 : 呉竹文化センター (ホール定員 : 600名)
- H23 : 京都市勧業館みやこめっせ (ホール定員 : - 名)
- H24~H25 : イオンモールKYOTO (ホール定員 : - 名)